

内水面の環境保全と遊漁振興に関する研究 ―アユ遊漁の新規参入を増やす方策の試行 2― (令和元年度)

武田維倫

要 約

女性のアユ遊漁の新規参入者を増やす方策の試行として6名の受講生を対象に、アユの友釣りを指導する「女性アユ釣り師養成講座」を実施し課題抽出に取り組むと共に、女性を対象として実施されている芭蕉の里くろばね那珂川レディース鮎釣り大会について実施状況を調査した。講座については全5回実施し、受講生の安全を確保しつつ、きめ細やかな指導ができるよう、全ての講座で受講生1人につきアユ遊漁熟練者1人を講師として付け実施したところ、受講生からの評価は良好であった。募集告知と申し込みについては電子的に行うことが有効であった。また、会場については、安全性が高く、徒歩圏内にトイレが有り、釣れ具合が良好であるという条件を満たすよう選定をしたがこれらについても良好な評価を得た。一方、指導内容については、回を重ねる毎に講師によるばらつきが出てしまう点が課題として抽出され、解決策としてアユ釣り指導法の標準化が必要であると考えられた。また、初心者が単独でアユ釣りに出かけることが可能となるには、5回の講座では不足であると考えられた。しかしながら、5回以上の講座を実施することはかなり難しいことから、講座終了後の受講生が情報交換しつつ技術の向上を図れるような場の創出にも取り組む必要があると考えられた。芭蕉の里くろばね那珂川レディース鮎釣り大会については、市観光協会が主体となり地元漁業協同組合と商工会、釣り具製造企業等により構成される実行委員会を構成し行政からの補助金を導入し実施されていた。この大会は、釣果を競うだけでなく、初心者は道具一式を借り受けた上で、講師の指導を受けながら参加することが可能となっており、アユ釣りを始めるきっかけづくりについても考慮されている。今回が開催3回目であるが、回を経る毎に、参加者数は増えており、リピーターや県外からの参加者も多く、地域の特色ある恒例行事として定着しつつある。

本研究は（一財）東京水産振興会および（国研）水産研究・教育機構中央水産研究所「内水面の環境保全

と遊漁振興に関する研究」の一環として実施し、詳細な報告については（一財）東京水産振興会 HP

(https://www.suisan-shinkou.or.jp/promotion/pdf/inlandwater_report_2019.pdf) に掲載されている。

(指導環境室)